

令和元年度泉大津市事務事業評価委員会

地方創生交付金事業の KPI (重要業績指標) 等の検証結果

事業名	評価結果	主なコメント
セーフコミュニティ活動を通じた地域創生事業	本事業は、KPI 達成に有効であった	<p>○事業での取組みが、KPI に反映される経路を明確化した方が良い。また、統計データにはタイムラグのある数値もあるため、当該年度の活動と数値の関連づけを丁寧に行うべきである。</p> <p>○周知や市民協働についてさらなる工夫が必要である。とくに無関心層へのアプローチが重要で、参加を促すインセンティブ設計、アウトリーチなどの方策について検討が必要である。</p> <p>○長期的な取組のなかで、新たな危険等の発生により市民の意識にも変化がみられる。不測の事態に対してセーフコミュニティの枠組内で対応するのか、別の主体で対応するのかなど、対応主体について全体的に考える必要がある。</p>
K I X 泉州ツーリズムビューロー事業	本事業は、KPI 達成に有効であった	<p>○通常の事業とは異なり評価が難しい面がある。</p> <p>○集客数以外の指標について研究が必要。少なくとも本事業から本市がメリットを享受していることを示す指標が必要である。既存の資料をいかに使いこなすか研究が必要。</p> <p>○KIX 泉州ツーリズムビューローに観光・集客に関する調査研究機能を強化することが、各市町の支援につながる。可能であれば本市からその旨提案・要望を行ったほうが良い。</p> <p>○観光集客に対する市のスタンスや外国人受入れへの姿勢について、大きな方向性を今後考えていかなければならない。</p> <p>○KIX 泉州ツーリズムビューローが市の観光資源を発掘してくれるのか、なども含めて関わり方を考え、本事業が市に十分なメリットをもたらすように活用する必要がある。</p>